

KIDS SMILE LABO JOURNAL

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Vol.23
2023
TAKE FREE



KIDS SMILE LABO の 1 枚。

副園長の森菅さんが選んだ、とっておきの 1 枚を紹介します！

“進級の気持ちは木登りと同じよう”

4月という1か月は子どもたちの心の中でも日々、色々な気持ちが巡ったことでしょ
一つ大きくなったことを楽しんでいる子もいれば
一つ大きくなったことを頑張っている子もいる
たくさんの甘えたい気持ちをしまい込んでみたり
期待や不安、戸惑いの中を過ごしてきたのではないのでしょうか
木登りをしたいけど上に進んでいくのを少しためらう子どもの姿を見ていたら
この一か月を過ごしてきた子どもたちの姿や想いと重なるものを感じました
進んでみたり止まってみたり戻ってみたり
そうした子どもたちの一番近くに居た大人はどうだったでしょう
大人もまた色々気持ちは巡る時間を過ごしたのではないのでしょうか
色々な気持ちが巡る中に居る時こそ
自分のことを信じて
周りにいる家族や仲間のことを信じて
「ああ、大丈夫」
そう思いながら一つ一つの気持ちと向き合えたらと私は思います

photo & text by morimori

JOURNAL TOPIC

- 01 子どもとメディア - 第2段 -
スマートフォンやipad、ゲームなどが子どもに及ぼす影響とは…第二弾です！
- 02 端午の節句
5月5日の子どもの日に向けた取り組みをご紹介します！
- 03 KIDS SMILE LABO CLASS NEWS
新年度になって1ヶ月、今のクラスの様子は…？

kidssmilelabo.com

@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO



KIDS SMILE LABO CLASS NEWS

だいち おおぞら みなも

Daichi Oozora Minamo



進級して1ヶ月

4月。子どもたちは一つ大きくなったことを喜び、張り切って過ごす様子があちらこちらでみられました。水面クラスは身の回りのことを自分でやってみようとする姿が増え(まだ甘える姿もありますよ)、大空・大地クラスは自分のことだけでなく、水面クラスの子のことを気にかけてあげる姿が増えたように感じます。昨年度後半は合同クラスで過ごすことが多かったのですが、4月を境にその変化をより感じています。

遊びでは水面と大空・大地で別々の遊びを楽しんでいましたが、大空・大地が始めた警察ごっこの世界がクラス全体に広がっていきましました。空想おぼけを探したり、おぼけになってしまった保育者を倒そうと一致団結したり。みんな同じ世界の中に入り広場中を駆け回っていました。そんな子どもたちの混じり合いが嬉しく、それぞれの魅力がお互いにもっと、もっと伝わってほしいなと思いつつ見守っています。

文ちなちゃん

のばな

Nobana



目の前に広がる新しい世界

のばなになり、まもなく一ヶ月が経とうとしています。大きな部屋への移行と今年度から新たに2歳のスペースを作り過ごしていますが、大きな戸惑いは見せず、目の前に広がる新しい世界に心を躍らせているように見えます。そんな中、最初に見つけた楽しいことはパズル遊びでした。

子どもたちの手の届くところにパズルを置いておくと、朝夕と気がつけばパズルを引き出し、いくつも手にしては机や窓際のカウンターに座り、集中して楽しんでいきます。繰り返し遊ぶうちに一人でもできるようになり、「自分でできた！」が嬉しくて、みて〜!と見せてくれますよ。

まだ一ヶ月ではありますが、初めてのバス散歩に行ったり、暖かい日に相模川に入ったり、アトリエではハサミ遊びを楽しんだりと刺激たっぷりだったことと思います。

私自身も大きい部屋での生活は一年目。

子どもたちと一緒に楽しい!面白い!を沢山見つけ、より一層へLABOを味わっていただける一年にしていきたいと思っています。

文あづあづ

そよかぜ

Soyokaze



音色を感じて

新しい友だち1名が入園し、そよかぜクラス7名での生活がスタートしました。新年度と共に幼児室にあったピアノは私と共に引越。早速、子どもたちと一緒に「おつかいありさん」「いのぼり」「はたらくるま」「犬のおまわりさん」などを歌っています。また歌いたい時には、「もう一回」と言ったり、「おつかいありさん」「こっつん!」「こっつん!」や「はたらくるま」「どんどん」などと言葉にし、歌いたい気持ちを表現する子どもたちです。曲名を伝えることはまだ難しいですが、歌詞にでてくる言葉を使って、歌いたい気持ちを伝える姿が印象的でした。繰り返し歌う中で「単語」が残っているのだと感じた瞬間でした。

この一年、リズムからだを動かしたり、季節の歌をはじめ、たくさんのお歌を子どもたちと一緒にうたっていきたい幅を広げていきたいです。

文さっちゃん

こもれび

Komorebi



はじめまして! これから一緒にたくさん遊ぼうね。

今年度は2名のお友達が仲間入りしてスタートしました。初めておうちの人と離れて過ごす時間は不安でちょっぴり涙も。でも担任と抱っこや触れ合い遊びをしていくうちに少しずつ表情がほぐれていき、笑顔もたくさん見せてくれるようになりました!他クラスのお友達も、新しいこもれびクラスの赤ちゃんに興味津々。かわいいね、と声をかけてきてくれますよ。

お散歩では草の上に座ってみました。始めは少しびっくりにした表情でしたが、草の感触に慣れてくるとハイハイであちこちに探索!お水遊びもしましたが、びしょ濡れになってもへっちゃらです。これから様々なはじめてに出会うこと、経験していくことが楽しみです。

そして、ラボの給食では大きなサイズでカットした無農薬の野菜を出汁でじっくり柔らかくした煮野菜がです。始めはなかなか手が出ませんでした。おそろのおそろの手を伸ばしてお口にパクッ!モグモグ。真剣な表情で食べていました。たくさん食べて、大きくなあれ。

文ふくちゃん

端午節句

だいち おおぞら みなも

目の前に現れたのは…

恩曾川へ鯉のぼりを見に行ってきた！

バス停から少し歩いた先に、小さく見え

はやく近くに行きたい！という気持ちが

みんなの足取りを軽くし、ウキウキで進

んだ先には空を自由に泳ぐ鯉のぼり。余

りの迫力に子どもたちの気分も最高潮

に！「うわぁっおっさいね！」「たくさん

いる！」「あの色のこいのぼりが好き！」

とそれぞれの想いが言葉となり溢れ出し

ていました。

少しでもこの散歩が楽しみに思えるよう

に、みんなとカレンダーで鯉のぼり散歩

の日を確認しながら「こいのぼり」の歌

を歌ったり、鯉のぼりに関する絵本を読

み期待が持てるようにと考えていました。

次の日の朝の振り返りでは、さつき行っ

たかのように「鯉のぼりがキラキラして

た！」「黄色い花が咲いていた」など『心

に残ったこと』を沢山話してくれた子ども

たち。そんな姿を見てまた来年もこの



成長を鯉のぼりに乗せて

入園時に保護者の方に作ってもらって

いる鯉のぼり。毎年恒例になっている手

形付けを行いました。手形の色には意味

があり、新年度大きくなった新しいクラ

スカラーを鯉のぼりに乗せます。「くす

ぐったいっ」「気持ちいい！」絵の具を手

に塗った感触を楽しみながら、昨年まで

絵の具を手塗ることが苦手だった子ども

も参加する姿があるなど1つ大きくなった

という気持ちがあるなど大きく成長させ

たのだなと感じました。

また一人ひとり自分のオリジナル兜も

製作しました。年齢やその子に応じて、

折り方や見せ方、声の掛け方をかえてそ

れぞれが自分の兜が「できた！」を味わ

えたらいいなと思いつきながら一緒に折

りました。できた人から兜に好きな絵や模

様も描いてみました。目やハートが描いて

あったり、ビニールテープでヒラヒラが

ついていた。驚いたのは兜の被る部分

にモノを入れ、肩紐を付けバッグに見立

てる姿も！日本の伝統的な行事を知り、

自分なりに新しく変化させる子どもたち

柔らかい発想力は大人では考えもつかない

ワクワクを生み出してくれるのでした。

文れいじくん



のばな

初めてのバス散歩

バス散歩に慣れて歩くことを頑張っ

いたのばなさん。念願のバスに乗って恩

曾川まで鯉のぼりを見に行きました！

楽しみにしていたバスの車内では車窓か

ら見える景色をみて「あれパパの車！」

と似ている車を指さしたり、初めて乗る

バスにドキドキしたりと色々な表情が見

られましたよ。

バス停に着き、鯉のぼりが泳ぐ姿が見え

ると好きな色を言い合いながら歩いてい

きました。

恩曾川までの道中は、トカゲを見つけ

て苦手ながらも触ってみる子、生き物が

大好きな子は離れたくなくなるほど触れ

合いの時間を楽しんでいました。

お目当ての川に着き、探索して生き物を

見つけようという水面を見つめているとザリ

ガニを見つめました。残念ながら捕ま

えることは出来ませんでした。その後

まだ近くにいたかもしれないとしばらく

川を見つめていました。斜面を歩いて

草花を摘んだり、鯉のぼりの横に立ち背

比べをして見上げてみたりと普段の散歩

とは違う特別な時間になりました。

次の日の散歩の道中でバスを見かけると

「あれ乗ったね」と嬉しそうな顔が見ら



こもれば

初めての手形、そよか

ぜはこいのぼりの手形取りを行う前

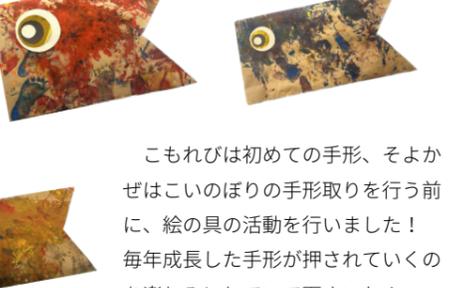
に、絵の具の活動を行いました！

毎年成長した手形が押されていくの

を楽しみにして下さいね！

こもればは初めての手形、そよか

ぜはこいのぼりの手形取りを行う前



Vol.12

ぼく、私たちの

ごはんがやってきた！

おひるごはんが出来上がり、乳

児クラスの中にある調理室へお茶

を取りにいくと、「あ！あっちゃん

(やっちゃん)だー！」と遊んでい

たおもちゃを放り投げて、満面の

笑みで足に抱きついてきてくれま

す。まだまだ小さな1歳児クラス

のみんなも、園生活の中でリズム

が出来ていて、お腹が空いた頃に

エプロン姿の大人が現れたら、も

うすぐご飯だということがよく分

かっているようです。そして、調

乳室で洗浄済のカップや水筒を定

位置に戻していると、ガラスの扉

を「パンパン！」と叩く音が聞こえ

後ろを振り返ると「お腹空いた

よー！はやくしてー！」と言わん

ばかりに、みんな舌を出してこ

ちらに訴えかけているのです。と

ても可愛らしくて、ついカメラを

むけてしまいましたが、ヨダレをた

らしてこちらを見ている姿を見る

と、たまに私をご飯と思っ

ていないか？と感じることが

あります。そんな食欲旺盛な1歳



おひるごはんが出来上がり、乳

児クラスの中にある調理室へお茶

を取りにいくと、「あ！あっちゃん

(やっちゃん)だー！」と遊んでい

たおもちゃを放り投げて、満面の

笑みで足に抱きついてきてくれま

す。まだまだ小さな1歳児クラス

のみんなも、園生活の中でリズム

が出来ていて、お腹が空いた頃に

エプロン姿の大人が現れたら、も

うすぐご飯だということがよく分

かっているようです。そして、調

乳室で洗浄済のカップや水筒を定

位置に戻していると、ガラスの扉

を「パンパン！」と叩く音が聞こえ

後ろを振り返ると「お腹空いた

よー！はやくしてー！」と言わん

ばかりに、みんな舌を出してこ

ちらに訴えかけているのです。と

ても可愛らしくて、ついカメラを

むけてしまいましたが、ヨダレをた

らしてこちらを見ている姿を見る

と、たまに私をご飯と思っ

ていないか？と感じることが

あります。そんな食欲旺盛な1歳

児たちの食事風景は中々見もので

毎日見ても飽きるということ

とはありません。4月から新しい



子どもとメディア について 第2段



子どもからは「かおちゃん」の名で親しまれている、KIDS SMILE LABOの園長。15年の保育現場経験を経て、保育園 KIDS SMILE LABOを開園。趣味の畑作業を通して、日常的に自然に触れ、「地域」「家族」「自然」「仲間」と繋がることを自身のテーマとして日々追究している。

保育園 KIDS SMILE LABO
園長 松下 かおる

この記事を見つけたのは、メディアの一つである携帯のLINEのニュースからでした。記事を読み終わった時に、大切な人にも伝えておきたいという気持ちが強くなり、職員全体にもこの記事を共有しました。皆様にも読んでいただきたいので、長くなりますが全文を載せます。

以下東京新聞web配信版より

ネット依存コロナ禍の子どもたち④

「偶然から始まった研究なんです」。東北大加齢医学研究所の所長、川島隆太（63）が振り返る。

◆学ぶ意欲の伸ばし方を探っていたら気付いた

子どもがスマートフォンを長時間使うと、脳の発達に悪影響がある。衝撃的な結論に達したのは、約10年前、仙台市教育委員会の依頼がきっかけだった。「学ぶ意欲を伸ばす方法を考えてほしい」と頼まれたのだ。

川島は、小中高の子どもたちの生活習慣と学力に関する膨大なデータを市教委に提供してもらった。朝食を取るか。家族と会話を交わすか…。さまざまな事柄と学力の関係を解析する中で、スマホに注目した。「デジタル機器の深刻なリスクを子どもに伝えたい」と語る川島隆太所長。仙台市の東北大加齢医学研究所でスマホを長時間使うと、学力が低い傾向がある。相関関係は明瞭だった。

次に、一人一人の偏差値の変化を2年間追った。最も向上したのは、当初スマホを使用していたのに翌年度にはやめた子ども群。次に向上したのは、2年間使用しなかった群。逆に低下したのは、2年間使用し続けた群。最も低下したのは、当初は使用していなかったのに翌年度には使い始めた群だった。

川島は言う。「スマホが原因で学力が下がった。約7万人のデータであり、これほどはつきりしたエビデンス（証拠）はない」

◆MRIで観察し続けたら驚くべき結果

では、なぜ学力が下がるのか。謎を解くため、約220人の脳を磁気共鳴画像装置（MRI）で観察し、3年間追跡した。驚くべき結果が出た。

ネット使用の習慣がなかったり少なかったりした子どもは、物事の認知機能に重要な役割を果たす大脳皮質と大脳白質が順調に大きくなっていった。体積にして約50ccだ。

しかし、ほぼ毎日使う子どもは、体積の増加がほとんどゼロだった。

「発達が進まなかった状態が非常に深刻だ。小さな画面で多くのアプリを頻りに切り替え、一つの物事に集中しにくいスマホの特性が関係しているのではない」

◆子どもの未来を守るためにブレーキを

こうした研究結果を、川島は「都合な真実」と呼んでいる。

教委に伝えても、PTAの講演会で親に訴えても、教育になかなか反映されない。「ネットを使わないのは無理」で終わってしまう。便利さや効率だけを見て、デジタル機器を子どもに安易に与えている

海外の研究でも、デジタルの負の側面は次々に指摘されている。例えば、スマホを単に所持しているだけで睡眠不足を招き、感情や認知機能に悪影響が出るとの論文。デジタルの読書は、紙の読書に比べて理解が困難との論文…。枚挙にいとまがない。

川島は今、過度なネット利用が遺伝子レベルに与える影響を明らかにしようと、研究に取り組んでいる。「深刻なリスクを子ども自身に伝える教育を、全国に広めたい。子どもの未来を守るため、大人がブレーキをかけなくては」（白井康光、敬称略）

以上

ネット依存コロナ禍の子どもたち

東京新聞 web 配信版より



このメディアのシリーズは全部で5弾であり、そのそれぞれが考えさせられる内容になっています。たのび、お時間ある方はぜひ読んでみてください。以前にも「Journal」で子どもとメディアという記事を書かせていただきました。もしかしらば、その内容と重複してしまうこともあると思いますが、大切なことなので何度でもお伝えしていきたいと思っています。

このようにお伝えしている私自身も幼少期はアニメ番組が好きで「忍者ハットリくん」「キテレツ大百科」「クレーマーミ」など、タイトルで世代がバレてしまいましたが、毎週楽しみにして新聞のテレビ欄によく赤丸をつけていたことを思い出します。大好きな番組も毎週30分間という決まった時間で始まり決まった時間で終わります。もつと見たいと思っても、来週まで待たなくては見られません。昔はそれが当たり前でしたよね？

しかし、現在はYouTubeやネット配信という便利な時代に突入し、好きな番組が毎日何時間でも見られる環境になりました。

また、昔は家に帰らなければ見られないテレビ画面から、携帯という媒体でいつでもどこでも、メディアの世界につながる事ができてしまっています。休日のレストランにきて家族でご飯を食べているのに、子どもは携帯を握られメディアの世界にどっぷりとハマっているという光景もよく見かけます。移動中の電車やバスで静かにしてほしいからという思いからか、携帯を手にかけている光景にも出会います。

以前動いていた保育園では、園の決まりとしてテレビやメディアの世界に触れさせないでください。というお願いがありました。

メディアの世界は基本的に受動的な時間が多く、子どもが自ら考え動くという主体的な時間は生み出しにくくなり、奇声や落ち着きのなさにつながるからということからでした。かなり厳しく保護者の方にも伝えていて驚いたことを覚えていますが、それ以上に驚いたのがメディアに触れていない子どもたちの落ち着き方でした。メディアの強い刺激を受けていないことから、主体性や意欲というものを強く感じました。そんな経験からメディアの持つ影響力を知り、以前行っていた子育て講座でも「子どもとメディア」という切り口で多くの方に伝えてきました。そして、この記事に出会い再度伝えたいという気持ちが強くなりました。

事務所でもこのような話をしていたのですが、ゆうゆが強く共感してくれました。

ご家庭で実践してくださった様子も併せてゆうゆにインタビューを行いましたので、ご紹介したいと思います。

この記事を読んで少しでもご家庭で実践していただければ幸いです。



かおちゃん
KIDS SMILE LABO 園長

あ
ゆうゆ

小4・小2・年長3児のおかあさん

Q1 メディアの記事を読んでどう感じるか



常にメディアがある環境で成長していく子どもたちは、私たち大人の選択一つで大きく未来が変わってしまうと感じました。人格を形成する大切な時期に、どのように子どもたちと向き合い、どのようにメディアと付き合っていくのかは、これからの課題だと思っています。まずはどんなに忙しくても一度手を止めて、子どもたちと目と目を合わせてコミュニケーションをとりたいです。大切なことを忘れないように。

Q2 メディアの記事を知らなかった頃と知ってからどう感じたか・心の差

以前は家事が捗るからと、子どもたちの好きな番組や動画を観ていて自分がいました。成長した子どもたちが、やるべきことを後回しにして、TVやゲームに夢中になっていることを叱ったこともありましたが、その状況を作ってしまったのは自分であったことに気がつかされ、大変後悔しています。今からでも取り戻せればという気持ちで、メディアと向き合っていきたいと思っています。



Q3 メディア断ちするまでとした後の変化

小学生になる我が家の子どもたちは、学校や習い事から帰宅すると、目にも止まらぬ速さでリモコンを手にし、TVをBGMにしながら学校の準備や宿題を始めます。

良くないことだと頭では分かっているものの、仕事から帰ってきた私は、それを横目に慌ただしく片

付けや夕飯の準備をする毎日です。子どもたちの優先順位が、TVやゲームに変わってきているのを感じながらも、なかなか日常を変えられずにいた時、かおちゃんが教えてくれたある記事で、大変な危機感を覚えました。

「スマホを長時間使う子どもは脳の発達に阻害される」本当に怖いタイトルです…

このまま子どもたちをメディアに晒しておくことがどんなに危険なことかを改めて知り、日常を変化させるべく、TVやゲームを断つことに決めました。

初日は退屈だと言っていた子どもたちも、2日目には各々自分の好きな本やおもちゃを手にし、3日目になると自然とテーブルにみんなが集まって、宿題や読書をする姿が見られました。部屋の中からTVの音が消えた代わりに、子どもたちの声がよく聞こえるようになりました。これは嬉しい変化でした。

そして以前にも増して寝付きが良くなり、布団に入ってから数秒でスーッと寝息が聞こえてくるようになりました。睡眠の質も上がったのか、朝の目覚めが前より良くなったように感じます。

ほんの少しのことで、たくさんの変化が現れたのが嬉しい一方で、子どもたちがどれだけメディアに染まっていたのかと思うと、恐ろしくも感じています。これから成長していく子どもたちを取り巻く環境では、益々メディアを切り離すことが難しくなっていくことと思います。メディアに飲み込まれない強い心の基盤を育てあげられる絶好のタイミングを逃さないよう、お父さん・お母さん、一緒に頑張りましょう！

今回メディアについて考えるきっかけをくださったかおちゃんには、とても感謝しています。ありがとうございます！

